

「松山の授業モデル」とICT活用（国語科）

学習場面 (松山の授業モデル)	ICT活用例
<p style="text-align: center;">■ 学習課題の設定</p> <p style="text-align: center; background-color: #800000; color: white; border-radius: 15px; padding: 5px;">習得・活用・探究</p>	<p style="background-color: yellow;">学習の見通しをもたせ、興味・関心を高める場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「A話すこと・聞くこと」領域において、学習の見通しをもたせるためにスピーチのモデルを共有するための動画を提示することや、「B書くこと」領域において、モデルとなる文章や図、写真などの複数の資料を大型提示装置に提示することなどが考えられる（A1）。 ・「C読むこと」領域においては、写真や映像等を活用して、教材への興味・関心を高めたり、これから学習する内容を概観させたりすることが考えられる（A1）。 ・書写の指導においては、拡大提示装置やデジタル教材を活用することで、毛筆を使用した点画の書き方への理解を深め、筆圧に注意して書くことを意識させることができる（A1）。
<p style="text-align: center;">■ 交流し考える学習</p> <p style="text-align: center; background-color: #008000; color: white; border-radius: 15px; padding: 5px;">交流・表現・体験</p>	<p style="background-color: yellow;">情報を収集・整理し、集めた情報を利用して自分の考えを形成する場面（小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」領域における「情報の収集」の学習過程などにおいて、設定した話題や題材に関連する情報をインターネット等で検索したり、集めた情報を相手や目的、意図に応じて整理したりすることが考えられる（B2）。 <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「B書くこと」領域における「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」の学習過程においても、インターネット等で検索して集めた情報から目的や意図、相手に応じて、用いる情報を選択し、自分の伝えたいことがより明確に伝わるように工夫することなどが考えられる（B2）。 ・「C読むこと」領域における「構造と内容の把握（説明的な文章）」「精査・解釈（説明的な文章）」「考えの形成」の学習過程において、インターネット等を活用して調べた情報を比較、分類したり、それらを既存の知識や理解した内容と結び付けたりして自分の考えを形成することが考えられる（B2）。 <p style="background-color: yellow;">情報を収集・整理し、集めた情報を利用して自分の考えを形成する場面（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の解決のために、画面上で、付箋に書き出した情報を分類したり、スライドを並べ替えて話や文章の構成を考えたりすることが考えられる（B1、B3）。 ・各自の目的に合わせて、収集、整理した情報（引用したり参考にした文献や資料）を、表計算ソフトなどを活用してデータベース化することも考えられる（B2、B3）。

■ 交流し考える学習

交流・表現・体験

考えたことを表現する場面

・「B書くこと」領域における「構成の検討」や「記述」「推敲」の学習過程において、自分が感じたことや考えたことを書く際に、電子辞書の類語を検索できる機能等を活用して、自分が伝えたいことを端的に表現する言葉を探したり、推敲する際により適切な言葉を選んだりするなど、語彙を豊かにして表現力を高める学習へとつなげることが期待できる（B3）。



・「B書くこと」の指導においては、一旦文章を書いた後に構成の妥当性を検討するといった学習も有効である。その際、文章作成ソフトを活用することで児童・生徒に過剰な負担をかけることなく、文章をよりよくするために段落ごと入れ替えることなども可能となる（B3）。

学びを共有する場面

・「C読むこと」領域における「共有」の学習過程においては、例えば、児童・生徒が書いた感想文を大型提示装置で映し出し、互いの意見や感想を確認し合ったり、特定の意見を拡大表示したりして、情報を共有することが考えられる（C1）。また、児童・生徒が教科書の文章をどのように解釈しているかを一覧にして大型提示装置で拡大表示することで、他の児童・生徒の意見や感想を見比べ、ペアやクラス全体での交流の活性化へとつなげることも可能となる（C2）。



■ 学習の振り返り

内容×方法

学習の内容を蓄積したり振り返ったりする場面

・「A話すこと・聞くこと」領域における「話し合いの進め方の検討」の学習過程においては、例えば、司会者が目的に応じて適切に進行できているかどうかを、ビデオカメラ等で撮影した動画を再生して振り返ることや、司会者、提案者、参加者などについて、それぞれの役割を理解して話題に沿って話し合っているか、その発言は話し合いの流れを踏まえているかなどの観点から、動画を確認して互いに助言し合うことも有効である（B3、C1）。

・音声表現はそのままで形に残るものではないため、伝えたいことが明確になるような表現の工夫をすることが大切である。そのため、「A話すこと・聞くこと」領域における「表現」「共有」の学習過程において、タブレット型の学習者用コンピュータを活用し、自分や他の児童のスピーチの様子を録画したり再生したりすることを通して、自分の声がどのように響いているか等、自分の表現の工夫を具体的に見直すことも考えられる（B1、C1）。

